

平成 24 年度 海外臨床薬学研修報告書
「アメリカ薬剤師の活躍から感じた可能性」

研修期間：平成 24 年 8 月 19 日～9 月 1 日

研修先：南カリフォルニア大学薬学部

薬学部薬学科 5 年

080973213

大塚 みゆき

8月の後半から約2週間の USC 海外研修に参加させていただきました。以前から海外に行ってみたくてという気持ちは持っていましたが、この研修プログラムに応募したのは、個人の旅行とは違いアメリカの医療施設を見学できるという点に魅力を感じたからです。アメリカの医療や文化を現地で学び、日本のそれと比較して、多くを学びたいと思いました。アメリカは医療分野において非常に発展していて、常に日本の先を行っているイメージがありました。今回の研修に参加してみたことで、アメリカでの薬剤師の活躍の場の幅広さを知って驚き、また、反対に日本の医療の優れた点も発見することができました。

USC では、Wincor 先生とその学生から講義を受けたり、皆でディスカッションを行ったりしました。精神疾患についての講義を受け、うつ病患者の症例を取り上げて SOAP 形式で問題点を分析し、ディスカッションを行いました。印象的だったのは Wincor 先生の講義の進め方、学生への接し方です。講義時間中は学生に発言が求められ、その発言に対する先生の反応はとてもポジティブだったので、受身ではなく積極的に自分の考えを发表しようという気持ちに変わっていきました。アメリカの大学での講義がすべてこのような形式なのかはわかりませんが、勉強しようと意欲がわいてくる良い講義だと感じました。

他には、医療施設に行く前に必要とのことで HIPAA という患者のプライバシー保護に関する講義を受けましたが、病院や薬局での個人情報の扱いは日本とほぼ同じでした。

2週目からは医療施設を訪れるクリニカルツアーが始まりました。どの施設でも調剤業務のほとんどをテクニシャンがこなし、薬剤師は鑑査や服薬指導に専念するシステムが確立されていました。コンピュータが多く導入され、業務が効率化されている印象を受けました。日本では調剤業務も薬剤師が行うため、その他の業務に専念することは難しくなっています。アメリカでは調剤をテクニシャンに任せることで、薬剤師は患者に集中することができます。

アメリカの薬剤師は、州によって異なりますが、処方変更やワクチン接種を行うことができます。高血圧などの慢性疾患でコントロールが安定している患者では、医師の診察なしに薬剤師が患者の状態を評価し薬物療法を調節することができます。また、日本とは異なり薬剤師免許には更新制度があります。これらのことから、アメリカにおいて薬剤師は他の医療従事者から信頼される確かな実力を持ったプロフェッショナルであると感じました。薬剤師として行える業務の多様さや責任の重さが、薬剤師や学生のモチベーションの高さにつながっていると思われます。

私たちは薬学部が6年制になってから3年目の学生です。日本の6年制薬学教育は、アメリカの薬学教育を参考にして導入されたようですが、カリキュラムの内容は大きく異なり、アメリカの制度では臨床実習の機会が非常に多いことに驚かされます。USC では4年次に 600 時間の実務実習が定められているほか、1年次から臨床現場に出て 900 時間以上の実習経験を積みます。アメリカの教育は臨床実習重視で、即戦力となる薬学生が育ちます。私は日本で薬局実習を終えたばかりでしたが、初めての实習では薬剤師の先生方に教わるばかりで、大学で学んできたことをなかなか生かせなかったという苦い経験をしました。薬局で出会った USC の学生はひとりのスタッ

フとして戦力となり業務をこなして、自分の実習内容との違いに驚きました。膨大な薬の知識は実践でこそ身につくと思われ、さらに大学で学んでいることが実際の現場でどのように実践されるのかを早いうちから知ることは学生の学ぶ意欲に繋がり、また、薬剤師としての成長も早くなると考えられます。

アメリカでは文化や環境といった面で日本との違いを感じました。アメリカは金銭に関して非常にシビアであり、お金がなく保険にも入っていないとわかると治療を拒否されることもあるそうです。国民皆保険制度が徹底されていることは、日本の医療の優れた点であると改めて認識しました。LA の街を歩いても人々の貧富の差は瞭然で、それによる医療の格差はやはり大きな問題となっているようです。

薬局で、日本では見慣れないボトルに錠剤が詰められ患者に手渡されていましたが、これは人々が鞆を持たず、もらった薬をそのままポケットへ入れて帰るという文化によるそうです。日本のようにあらゆる剤形や包装の選択肢があることはメリットも大きいけれども、文化の違いによって取り入れられないこともあるのだと学びました。

まとめとして、日本の医療とアメリカの医療とでは互いに優れた点や見習うべき点がありました。文化などの違いから、何もかもが我が国で通用するとは思えませんが、薬剤師・薬学生のプロフェッショナルとしての意識の高さは見習いたいです。今のアメリカの薬剤師の活躍の裏には、薬剤師が確かな実績を残してきた歴史があるのだらうと思います。制度は違えど、日本の薬剤師のこれからの可能性を感じました。

今回はこのような貴重な機会をいただけたことに感謝いたします。